

## 平成29年度第1回敦賀市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成29年5月8日(月) 15:30～16:50

2. 場 所 市役所5階 第3委員会室

3. 出席者

	市 長	渕 上 隆 信		
	教 育 長	上 野 弘	教育長職務代理者	神 谷 敬一郎
	委 員	佐々木 興 栄	委 員	岸 本 松 則
	委 員	中 宮 智 子		
事 務 局	事 務 局 長	池 田 啓 子		
	教育総務課長	山 本 寛 治	学校教育課長	江 戸 義 直
	秘書広報課長	山 田 博 道	児童家庭課長	飯 田 正 人
	住宅政策課長	戸 嶋 吉 昭	教育総務課主幹	吉 田 聡
	教育総務課総務係長	杉 村 祐 介	教育総務課臨時	森 川 友

4. 内 容

(1) 開会

(2) 市長あいさつ

本日は、今年度第1回目の総合教育会議に、お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。昨年度の教育行政の大きな動きとしましては、教育委員の皆様方のお力添えを賜りまして、今後5カ年の教育行政の指針となる「敦賀市教育振興基本計画」を昨年9月に教育委員会の方で策定をいただきました。また、「敦賀市『知・徳・体』充実プラン」として、現在、全市的に小中一貫教育を進め、福井大学教育学部附属学園と共に作成した小中一貫カリキュラムの実施を行っているところでございます。このような中で、本日は、特に角鹿中学校区における小中一貫校の設置について、協議をいただきたいと思います。また、昨年度、平成29年3月30日には角鹿中学校区統合検討委員会より教育委員会の方に答申があったと聞いておりますし、これが実現すれば、公立の小中一貫校としては県内初の試みとなりますので、そのようなことも踏まえながら、教育委員会並びに本市の方針について審議を行いたいと思いますので、どうか忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

まず、冒頭、会議の公開・非公開について確認をさせていただきます。敦賀市総合教育会議設置要綱第6条第1項においては、会議は原則公開とされておりますが、本日は議題が角鹿中学校区小中一貫校の設置について審議するものであり、本市の方針について定められていない中で公開することは公益を害するおそれがあるため、同条同項に基づき「非公開」とさせていただきますと思いますが、これにご異議はありませんか。

異議なし

(3) 協議事項

(1) 角鹿中学校区小中一貫校の設置について

教育総務課長 資料に基づき説明

岸本委員…文科省が昨年実施した小中一貫教育の制度化に伴う導入の意向調査によると、28年度現在で、小中一貫教育をしているところが14%、小中の連携教育のみが68%、どちらもしていないが18%です。今後も小中一貫教育の予定がないところは54%でした。公立学校の小中一貫は県内初となると、どういう効果を狙って小中一貫教育をするのかを説得力ある説明をしないといけないと思います。

市長…角鹿中学校を統合しますといったところで、ずっとそのままになっていました。建築の耐用年数のこともあり、平成30年度までに建て替えをしないといけないのにどうしたらよいかという状態になっていましたが、耐用年数というのは建物の寿命ではないということが解決できたので、時間的な余裕が少しできました。予算も確保されていませんでした。統合するうえで教育が変わるのに教育のソフトも準備されていませんでした。角鹿中学校だけ小中一貫教育を進めても、転校したときにずれが生じるので、市内全体で一体的な教育が必要だということで、いろいろな努力をしてプログラムを作成してもらいました。今中学校で学力が下がるということがありましたが、敦賀市の場合はだいぶ違う結果がでてきているので、ソフト的なものは固まってきたと思います。その中で、一体型、隣接型、分離型とありますが、普通の小中学校は分離型で教育をしていきますが、いつでも一体になったときにも利用できます。耐用年数を迎えているので、角鹿中学校については建て替えが必要になります。一緒になったからといって同じ学年の人たちが増えるわけではなく、縦に伸びるだけですので、当初うたっていた少数の人数が増えて社会性をもつという議論とは少し違うだろうということは予想されます。一緒になって教育をしていくということに関してはなんとか形になっていくかなというところまで来たと思います。子どもたちに対して教育が一貫してできるのなら答申を受けた一体型の小中学校をつくっても何とかできるのではないかなと思います。経費は削減された方がいいのですが、私自身は教育に対してお金を減らすことは考えたくないのですが、お金がかかっても小規模校でやりたければいいと思います。それで子どもたちがきちんと育っていけばいいと思います。角鹿中学校については一体化する、小中一貫校にするということを宣言しているのをどういう風に乗越えていくかが今の課題だと思っています。

岸本委員…角鹿中学校を小中一貫教育にするのはやりやすいですし、メリットになるところも導入できます。一体型にするのが一番良いと思います。一番心配されるのが他の中

学校区が分離型で進めていくときに、角鹿中学校区の小中一貫と、他の小中一貫とどう整合性を見つけていくかということだと思います。場合によっては角鹿中学校の小中一貫教育ではもっと進めていけるけれど、他の中学校区と合わせてみたらブレーキをかけないと整合性がとれないことが出てきたりするので、そのあたりをきちんと横を見ながら進めていく必要があると思います。角鹿中学校区の小中一貫教育のシステムを他の中学校区に使えるのかということも絶えず研究していかないといけない。小学校は英語がでてくるので、英語の免許をもった中学校教員が小学校の3年生から中学校3年生まで指導することができます。理科や数学についても縦で見ることが非常に大事なので、小学校でしたことが中学校で発展的に出てくるということを見越して授業をすれば伸びます。

市長…一体型にすることに対して試験的なものになると思いますが、他の3つの中学校を一体型にしないといけないということはないので、生徒数も多いのでできないので、教育のソフト面でそういうことを目指していくことになると思います。私は小中9年間一緒だというのは大きかったり小さかったりするので、グラウンドでサッカーをしていて中学生が蹴ったボールが小学生にあたるなど不安はありますが、グラウンドを別にするなどの工夫もあります。もうひとつは国の方針もその方がいいのではということも出ているので、方向性としては大きくは間違っていないと思います。もう少し練って時間的に詰めていったらいいのかもしれませんが、校舎の年数もあるので早くしないといけません。

岸本委員…小中一貫教育の目的で、制度と形を変えたら子どもの力がつくという問題ではないので、これをすることによって一番鍛えられるのは教員だと思います。これを契機に教員の資質を伸ばしていく。小学校の先生方も中学校の教科の内容を分かっていないとだめですし、中学校の教諭も小学校のどこで何を習ってきたかを分かってないといけない。お互いに交流して研修をしていくということは教員の資質が上がるということになります。この制度によって教員の力がついてきて、子どもに跳ね返っていくと思います。研修などを教育委員会として計画的に機会を設けていかないと身になっていかないと思います。全市的に小中一貫をしようとしているのは福井県では敦賀だけだと思うので、敦賀市が独自に教育研修を取り込んでいく必要があると思います。

市長…「知・徳・体」充実プランを拝見して感動したのは、先生方が幼保小と小中の研修をしている写真を見てすごいなと思いました。そういうことが必要になってくるかと思っています。

教育長…都市教育長会議等では、1中学校1小学校でしていたり、1中学校3小学校等、複数の学校で小中一貫教育を進めているとの報告がありました。宮城県五ヶ瀬町は小規模校を存続させて特色ある教育をしています。それぞれ地域の特色を生かし、実情に応じた地域の小中一貫教育がありますので、それぞれのやり方を尊重すればよいかと思っています。委員がおっしゃったように、小中一貫教育を進めれば進めるほど

課題が出てくるので、先生方の研修については必要だと思っております。昨年、年間3回程度、小学生が中学校にきて勉強するときに、部活動紹介をしたのですが、担当者同士の連携不足で、中学校入学後にも再度部活動紹介をしてしまったことがありました。そもそも小中一貫教育とは無駄な重なりをなくすという大きなテーマがありましたので、次年度から整理していく方向で校長会で話をしました。また、小学校2年生でお手紙という題材を国語の勉強なのですが、中学校3年生の英語の教科書でも出てきます。教科は違いますが、同じようなことを勉強している。小学校の先生も、中学校の先生も知っているということは必要だと思います。以前、中宮委員からご指摘があったのですが、保幼小の接続で、保育園、幼稚園、認定子ども園の先生方が小学校1年生の教科書を勉強する機会がありまして、それをしていくと小学校で学習していく内容が保育所幼稚園で先生方がご指導されていることとピタッとはまっている。お互いの先生方で共通理解ができて、双方で指導していきましょうという意識が小学校1年生の先生方で変わってきた事例がありました。敦賀南小学校区で実施していますが、いい成果として報告があがってきています。先生方は大変でしょうが、勉強する機会を多くもつことは必要だと思います。今年も同じような形で計画を立てておりますので、進めていけたらと思っております。

岸本委員…先生方にいろんな負担がかかってくるので、調整しないといけない。片方ではアクティブラーニングだといわれている、道徳は教科化される、小中一貫でこれもしてくださいなど言われていますが、先生方の勤務時間数が非常に多いという調査結果が出ています。なんとかしないといけないと思いますが、課題は増えていく。先生方の雑務を減らしていく方法がなにかないのかなと思います。

教 育 長…先ほど市長からもありましたが、小中一貫カリキュラムを作成するときに無駄な重なりをなくすこと、<sup>つまづき</sup>躓きの部分だけをきちんと押さえて指導すること、スムーズにつながっていくということを先生方が知って指導にあたっていただくことを計画立てております。今回の研修で白梅学園大学大学院の無藤先生からアドバイスをいただき、小中一貫のカリキュラム、「知・徳・体」充実プランをつくりました。何かをスクラップして何かを組み立てていくという姿勢は持ち続けていきたいと思っております。

神谷委員…福井県の他の地域でこういう動きはまだないのですか。

教 育 長…そもそも福井県は0歳から18歳まで接続してという、福井型18年教育をすすめています。小中一貫という一つの流れとして進めている市町は県内では敦賀市だけです。

岸本委員…戦前は小学校しかなく、戦後中等部ができて義務教育9年間になりました。義務教育学校をつくって9年間見通してする学校があってもいいのではないかと。そうなるとう小学校中学校の制度の中では小中一貫教育になってしまう。

神谷委員…福井大学のような小中高大のようなところはそんなに動きはないのですか。

教 育 長…全国で義務教育学校はございます。

神谷委員…教育学部のある学校ですか。

教 育 長…小学校6年間と中学校3年間の接続というところで、子どもたちの発達の状況が以前に比べて少し早くなってきているのではないかと。小学校5、6年生でも中学校1、2年生の学習内容をおろしてもいいのではという議論がありまして、その中で義務教育学校という体制が生まれてきたと聞いております。たとえば小学校5、6年生で英語科を入れていきたいと思いますという話の中では、中学校の教科書の内容を先取りしてやっ払いこうということもあります。

神谷委員…岸本委員がおっしゃるように6-3制にするとどうしても固執してわかれてしまいますが、9年制にすれば柔軟な形がとれるのではないかなと思います。英語を自由に下におろすこともできると思います。

市 長…今の小中一貫でもしようとしていますね。

教 育 長…そのために前回つくば市に本市の英語科の先生が研修に行っていました。今回は、水戸市も小中一貫教育を進めておりますので、研修に行っています。4-3-2制や8-1制に分けて、特色を出すということで茨城県は工夫をされているようです。本市は市全体で一体的に進めていこうということで6-3制を基に、学習内容については、進めていこうと思っております。

岸本委員…姫路市に行ってきたのですが、全市で小中一貫をしていました。一体型を原則としていました。メリット、デメリットがでていっているので、敦賀とよく似た形になっているようなので参考になるのかなと思いました。Q&Aも載っていました。学力と人間関係力もみていこうとなっていました。

教育総務課長…方針についてご意見ありましたらお願いいたします。

岸本委員…敦賀市すべての中学校区で小中一貫をするので、専門部会の中で教育課程のことにしても触れていますね。角鹿中学校区の専門部会をつくると、残り3つの校区との整合性が難しいと思います。基本線は教育委員会を出していかないといけないと思います。

教 育 長…今、角鹿中学校は文科省の研究指定を受けていまして、カリキュラムについては全国に向けて発信しているところです。カリキュラムの策定は本市の指導主事も入って進めています。全市的にはカリキュラムを策定するに当たって、教科指導員・研究員の先生方をお願いして小中一貫カリキュラム vol. 2を作成していこうとしています。小中一貫の行事をするときには調整会議が必要ですので、調整する組織を作ることを、教育委員会で考えております。

市 長…岸本委員がおっしゃったのは、学校運営部会のところですね。

岸本委員…はい。

岸本委員…校長、教頭は市内の全部のですか。

教 育 長…9ページの15～22の校長、教頭です。

岸本委員…小中一貫は制度だけではなく、教員も小中一貫ですね。小学校の英語の教諭が中

学校にも行き、中学校の英語の教諭も小学校に行く。出入りすることによって小中、両方お互いが見れます。中学校の免許をもった教員が小学校におりることばかりを考えていてもうまくいかないの、小中の教員が交流できるためには、免許をもった人がどのぐらいの数が適正で必要なかを考えていかないといけない。教員が小中一貫で連携していかないと、名前は小中一貫なのに中身は何も交流していないとなるので、お互いが両方の中身を知ることが小中一貫のいいところだと思います。

市長…それでは、これを方針にするということによろしいでしょうか。

委員…了承。

市長…ではこれで方針として認めていただいたということで、今後とも我々市長部局と教育委員会と十分連携させていただきながら、また運営のときもご相談しながら学校の設置に向けて取り組んでまいりたいと思います。

それではこれもちまして、平成29年度第1回敦賀市総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。